

在日アフガニスタン難民申請者の強制収容によるメンタルヘルスへの影響

市川政雄、中原慎二、若井晋

目的：2001年9月、米国ニューヨークで発生した同時多発テロ事件以降、強制収容される在日アフガニスタン難民申請者が増加し、そのメンタルヘルスへの影響が懸念された。そこで、私たちは在日アフガニスタン難民申請者のうち強制収容されたことがある人とない人を比較することで、その影響を検討した。

方法：私たちは2002年から2003年にかけて、日本で難民申請中のアフガニスタン人を対象に横断研究を実施した。対象者には弁護士やNGOを通して連絡を取った。連絡が取れた73人のうち、55人が研究への参加に同意した。対象者の精神症状の測定には、不安感と抑うつはホプキンス症状チェックリスト25項目版、心的外傷後ストレス障害（PTSD）とトラウマ体験はハーバードトラウマ質問表を用いた。精神症状はおのおの複数の症状を4点満点で評価し、その合計の平均値が4点だともっとも重症であることを示す。

結果：回答者は来日前に平均10種類（標準偏差：4.0）のトラウマを体験していた。来日後、強制収容されたことがあるのは18人（33%）。強制収容されたことがある人とない人でトラウマ体験やその他の特性に違いはなかったが、強制収容されたことがある人の不安感（2.91）、抑うつ（2.75）、PTSD（2.90）の平均値は強制収容されたことがない人（2.30、2.41、2.34）と比べ高かった。重回帰分析の結果、日本での強制収容は他の要因を考慮してもメンタルヘルスに悪影響を及ぼしており、その度合は過去のトラウマ体験や独居であることがメンタルヘルスに及ぼす影響と同等であった。

結論：在日アフガニスタン難民申請者の強制収容は他の要因を考慮してもメンタルヘルスの悪化に寄与していた。

オーストラリア・ニュージーランド精神医学会誌 2006年40巻341～346頁